

令和6年度 訪問型家庭教育支援情報交換会

令和6年11月28日(木)
ドーンセンター 大会議室1

令和6年11月28日(木曜日)、家庭教育支援に関する知見を学ぶとともに、参加者がお互いの情報や想いを共有することにより、支援員等のスキルアップ及び事業実施市町村の拡充・充実を図ることを目的に、「訪問型家庭教育支援情報交換会」を開催しました。

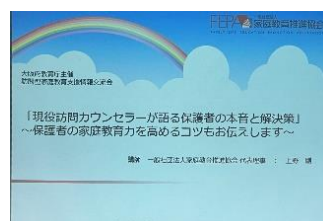
1 講演「現役訪問カウンセラーが語る保護者の本音と解決策」

家庭教育推進協会 代表理事 上野 剛 様

はじめに、家庭教育推進協会の上野様より、ご講演をいただきました。

家庭教育支援の意義や訪問カウンセリングを行う上での注意点、保護者の家庭教育力を高めるコツなどを話してくださいました。また、「自動思考」や「スキーマ」などの専門的な考え方も、具体例を交えながら説明していただくことで、参加者は自分事と捉えて学ぶことができました。

講演の後半では、物事や状況などの枠組み（フレーム）を変えて、別の視点から捉え直す「リフレーミング」を行うワークがあり、参加者からは「職場や家庭で実践したい」という意見が多くありました。



2 参加者による情報交換

続いて、「支援に関わる方」や「行政職員」、「教員」といった所属別のグループに分かれて、参加者による情報交換を行いました。普段話すことのない他市町村の方々との情報交換をすることにより、多くの刺激を受けて、明日からの実践につながったようです。



参加者の感想（一部抜粋）

- ・「子どもの支援から、家庭の支援への必要性を感じた」という上野さんの考え方にとっても共感しました。
- ・日々の業務の中でついつい忘れがちな内容でした。それを実践的な方法で経験できて良かったです。
- ・リフレーミングが心に残りました。教員にとっても大切なスキルだと思います。